

総合計画 体系	事務事業名		公共下水道汚水施設整備事業		所属部	上下水道部		所属課	下水道課					
	政策名		〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち〈定住環境〉		所属G	整備維持グループ		課長名	菅田雅人					
	施策名		〈16〉下水道の整備		担当者名	新田利治		電話番号	0854-42-3471					
	目的	対象	市民	意図	衛生的な生活環境の中で暮らす。		(内線)		4610					
	基本事業名		〈044〉下水道施設の整備		予算科目	会計	款	大事業	大事業	公共下水道汚水施設整備事業				
	目的	対象	下水道未整備区域の市民	意図		下水道に排水できるように整備する。		2	5	2	5	0	1	中事業
						1	0	1	0	0	1	中事業	中事業	

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間

☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返
(年度～)

☒ 期間限定複数年度
(16 年度～ 32 年度)

② 事業内容
(期間限定複数年度事業は全体像を記述)

(木次・三刀屋処理区)

処理区域面積 541ha
計画人口 7,600人
管路延長 98km
終末処理場数 1箇所
計画処理能力 6,800m³/日
(1,700×4池)

木次・三刀屋浄化センター増設工事
機械・電気設備 1式(4池目)
平成27年度～28年度

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動		28年度実績(28年度に行った主な活動)				29年度計画(29年度に計画する主な活動)			
	・木次・三刀屋浄化センター増設工事 4池目 水処理設備(機械設備) 1式 OD施設 最終沈殿池施設等 電気設備 1式 水処理運転操作施設 計装施設等 ・木次・三刀屋浄化センター設備更新工事 機械・電気設備1式 反応タンク設備等						・木次・三刀屋浄化センター 機械・電気設備更新工事 1式 ・里方ポンプ場機械更新工事 1式 ・木次・三刀屋処理区 機械・電気設備更新設計 1式			
② 活動指標			単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)			
ア	管渠工	m	136	48	0	0				
イ	処理施設	箇所	0	1	1	1				
ウ	中継ポンプ	箇所	1	0	0	1				
エ										

(3)事務事業の目的・指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか)		③ 対象指標	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)
目的	木次町・三刀屋町公共下水道区域内の住民、事業所等	ア 処理(整備)人口	人	9,197	9,175	9,086	9,086
		イ					
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)		④ 成果指標	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)
	対象施設すべての宅内排水を下水道へ接続し、汚水処理を行えるようにする。	ア 接続人口	人	7,764	7,927	7,788	7,830
		イ					
		ウ					

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (28年度決算)		② コストの推移		単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)	
需用費	889千円	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	4,000	37,750	124,000	17,000
役務費	366千円			県支出金	千円				
委託料	229,998千円			地方債	千円	37,700	40,600	104,100	15,200
その他	545千円			その他	千円	8,140	3,852	3,698	6,840
計	231,798千円			一般財源	千円				
事業費計 (A)				千円	49,840	82,202	231,798	39,040	
人件費	正規職員従事人数		人	2	3	3			
	延べ業務時間		時間	580	810	1,400			
	人件費計 (B)		千円	2,255	3,170	5,554			
トータルコスト(A)+(B)				千円	52,095	85,372	237,352		

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化（この事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？）	② 改革改善の経緯（この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか？）	③ 関係者からの意見・要望（この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか？）
・合併前の木次町・三刀屋町公共下水道事務組合が事業採択を受けた。H17年度より部国庫補助事業から汚水処理施設整備交付金事業へ、H22年度からは社会資本整備総合交付金へ転換した。	・雲南クリーンセンター汚泥共同処理施設が完成し、木次・三刀屋浄化センターの脱⽔設備等の修繕・更新が必要となる。	・議会からは、下水道経営の安定化に向けた対策についての意見がある。

事務事業名	公共下水道汚水施設整備事業	所属部	上下水道部	所属課	下水道課
-------	---------------	-----	-------	-----	------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	☐ 見直し余地がある	☒ 結びついている * 余地がある場合⇒	
B 有効性	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
	☐ 見直し余地がある	☒ 妥当である * 余地がある場合⇒	
C 効率性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	☐ 見直し余地がある	☒ 適切である * 余地がある場合⇒	
D 公平性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
	☒ 向上余地がある	理由 交付金を活用した事業に取り組むことで、より多くの機械・電気設備等の改築・更新が図れる。	
	☐ 向上余地がない		
B 有効性	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
	☐ 影響無	理由 今後は、施設の改築や更新が今以上に必要となるため廃止や休止はできない。	
	☒ 影響有		
C 効率性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
	☒ 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名) 雲南クリーンセンター汚泥共同処理施設整備事業	
	☒ 統廃合・連携ができる	理由 雲南クリーンセンター汚泥共同処理施設整備事業により、木次・三刀屋浄化センターの脱水設備等の修繕・更新が必要となる。(長期的な構想による農業集落排水施設等との連携・統合等の検討が必要である)	
D 公平性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		
	☒ 削減余地がある	理由 雲南クリーンセンター汚泥共同処理施設整備事業により、今後木次・三刀屋浄化センターの脱水設備等の修繕・更新が必要となる。	
	☐ 削減余地がない		
D 公平性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
	☐ 削減余地がある	理由 必要最低限の人員及び業務時間で業務を行っているため、人件費の削減余地はない。	
	☒ 削減余地がない		
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		
	☐ 見直し余地がある	理由 市の負担金徴収条例に基づき、受益者へ応分の負担を求めており、受益者負担は公平・公正になっている。	
	☒ 公平・公正である		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり B 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり C 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり D 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		
			・面的整備は、概ね完了している。処理場については、長寿命化計画により事後保全から予防保全へシフトし、LCCの縮減を図る必要がある。 ・管路についても点検を実施し、効率的に修繕・更新をしていく必要がある。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																							
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善) ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td>●</td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table> 廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。			コスト					削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上	●																							
	維持			×																					
	低下		×	×																					
・面的整備については概ね完了したが、経年劣化による機械の老朽化が課題となっている。そのため、今後は長寿命化計画により、機械設備等の改築・更新を実施していく必要がある。 ・平成29年度雲南クリーンセンター汚泥共同処理施設からの、希釈脱離液の水処理に伴う木次・三刀屋浄化センター増設工事が28年度において完成した。今後、脱水設備等の修繕・更新が必要となり、事業の効率化や経費の負担軽減を図ることができる。 ・平成28年度～29年度において雲南市汚水処理施設整備構想策定に取り組む。持続可能な汚水処理の運営を行うため、長期的(20～30年)な観点から既整備地区の効率的な改築・更新や運営管理手法(施設の有効活用、施設の統合等)について検討する。																									